

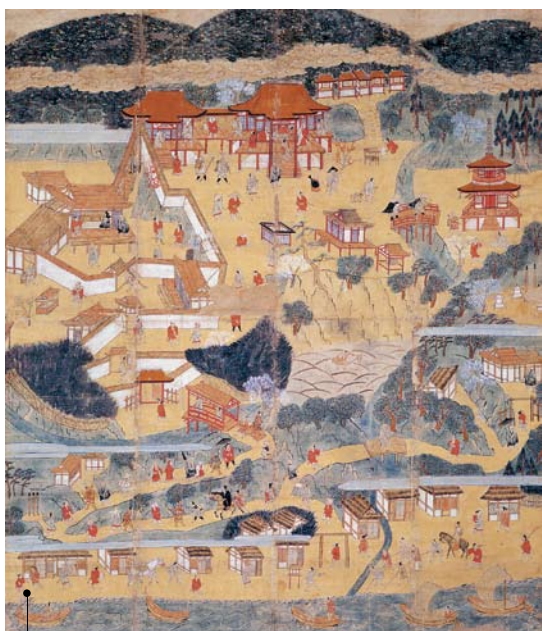
伊勢街道

「伊勢街道」

が達し

た背景には、古代・中世からの伊勢とのつながりの深さがありました。渥美半島には、古くから伊勢神宮領として「神戸」「御厨」「御園」が点在しており、これらの地名が今も残っています。

また、景勝地「伊良湖」の存在も大きく、時の歌人たちも、この地を訪れています。平安末期には、東大寺再建の資金調達の旅で、**西行法師**が伊良湖に上陸し、伊勢街道を通じて奥州に向かいました。また、江戸末期には、**渡辺華山**も近世の伊勢街道を利用して、伊良湖や神島へ向かつており、その旅の記録『参海雑志』には、「赤羽根遠見番所」などが紹介されています。



◆東観音寺参詣曼荼羅（東観音寺蔵）

東観音寺（豊橋市小松原町）が所蔵する参詣誘致の案内図（時代不詳）。往来する人々にぎわう伊勢街道の姿が描かれています（図下方）。東観音寺は、かつて海岸沿いにありましたが、宝永4年の東海地震による津波で崩壊し、高台に移転されました。

◆西行法師の足跡

伊良湖港近くに、西行の歌碑があります。西行は、諸国を旅して多くの名歌を残しました。

「巢鷹渡る 伊良湖が崎を疑がひて なほ木に帰る 山帰りかな」（歌集『山家集』）



今も感じられる伊勢街道の香り

■東大寺の瓦

鎌倉時代、東大寺鎌倉再建のための瓦が渥美で焼かれ、海を渡り奈良に届けられました。伊良湖町にある窯跡は、『伊良湖東大寺瓦窯跡』として保存されています。



●東大寺軒丸瓦



●東大寺軒平瓦

■常夜燈

旧伊勢街道沿いでは、至る所で秋葉山常夜燈を目にすることができます。海岸付近の森の中で、ひっそりと風情あるたたずまいを見せているものもあります。



●太平洋岸の崖森にある常夜燈（南神戸）

◆渡辺華山の『参海雑志』

渡辺華山が描いた赤羽根遠見番所。遠見番所とは、江戸幕府が外国船を見張るために設置した番所のことで、渥美半島では、ほかに久美原や和地などにもありました。戦国時代には、戸田氏が、赤羽根に通行料を徴収する関所を設けていたこともありました。



◆海路は冒険？

当時は、風が頼りの舟で海を渡っていました。高度な航海術により、海岸線を小刻みに、島から島へと渡っていったと考えられています。

●【絵】『参海雑志』から

